

## ●日本動物福祉協会一等賞

### やせいどうぶつと人間

林 礼士 はやし れいし

北陸学院小学校 二年

ぼくの小学校は、しぜんにかこまれた山の中にあります。いのしし、りす、ハクビシンやくまがいたり、いろいろなどうぶつがすんでいます。たまにカモシカもグランドで見ることができます。

きょ年の夏休みがおわって、学校へ行くと「けものたちにさつまいもをたべられてしまいました。どんなけものかわかりません。」と先生がかなしそうに言いました。それを、聞いて、びっくりして、くやしくて、ぼくは、とてもおこっていました。中にはないた子もいました。なぜなら、いもほりをしたあとにおちばをあつめて、やきいもをするのを春からずっとたのしみにしていたからです。

山には、竹の子、くわのみ、木いちご、どんぐり、くりといっぱいのきせつのたべものがあります。なのにどうして、ぼくたちのさつまいもを、どうぶつがねこそぎたべてしまったのか、考えれば考えるほど、わからなくなってしまいました。

それから、「じゅうがい」の本をいろいろと読んでしらべてみました。読みおわったあと、ぼくは、とてもショックをうけました。一ばんのげんいんは、ぼくたち人間のせいだったのです。まさかのまさかでした。

人間が、はたけにすてたやさいやくだもの、キャンプですてたゴミをたべて人間のたべもののおぼえてしまいました。人間が手入れをしなくなった田やはたけ、森林ばっさいですみかがなくなって人ざとにおりてくるようになったのです。

どうぶつたちのことをわるいと思っていたぼくは、とてもはずかしくなりました。さつまいもがたべられるのも、おかしくないことだったのです。

人間が、きっかけをつくったのに、人びとは、どうぶつたちをでん気さくやわなをしかけたり、自分かっ手すぎます。どうぶつたちは、ぶきがないのに、

人間はぶきをつかってひどいことをします。今年、竹の子とりに行って、四人がくまにおそわれてなくなりました。ニュースを聞くたびにかなしい気持ちになりました。どうぶつたちもひっしで生きていくために、人間とたたかっているのかもしれないと思いました。

どうぶつたちと、なかよくくらしていくためには、みんながどうぶつたちの行どうを知り、やさいやくだもの、ゴミのかたづけにちゅういしたり、山のまわりをととのえないといけません。ぼくたち人間がきちんとして、どうぶつたちの生かつを元にもどしてあげないといけません。どうぶつたちとなかよくくらせるせかいに早くなつてほしいです。

十月になり、いよいよもほりをしました。小さな小さなさつまいもが三本だけ、しゅうかくできました。どうぶつたちは、ほんのちょっとだけ、のこしておいてくれました。ぼくは、先生におねがいで、いものつるをもらってかえりました。その日のばんごはんは、いものつるのものをおかあさんにつくってもらいました。とてもおいしくて、おかわりをして、おなかいっぱい食べました。

いものつるをたべながら、ぼくみたいな子どものどうぶつが、さつまいもをたべて、ねぐらにかえって、おかあさんに

「今日のいもは、さい高においしかったね。おなかいっぱいであわせたな。」と言いながら、ぐっすりねむっていたのかなと思うと、なんだか、とてもかわいくなりました。ぼくは、つるの部分をたべて、どうぶつの子どもは、いもの部分をたべて、なかよく半分こをした気持ちになってきて「きょうだいみたいだな。」と思ったら、心がぽつとあたたかくなりました。

そして、「わるものだと思ってしまって、本とうにごめんね。」と心のなかであやまりました。